

聖書箇所:マタイの福音書25章14~30節
「タラントのたとえ」

【1】 タラントのたとえ

- ・ タラントのたとえ(マタイ 25:14~30)
一主の再臨をいかに待つか

一旅に出かける主人がしもべの能力に応じてタラントを渡した

- ① 5 タラント/2 タラント預かったしもべ
- ② 1 タラント預かったしもべ

※1 タラント=6000 デナリ

※1 デナリ=当時の1日働いて得られる賃金

- ③ 主人の意図を理解して行動したしもべが受けた賞賛
▷ 「良い忠実なしもべだ」
▷ さらに多くのものを任される祝福
- ④ 最後のしもべが受けた叱責
▷ 「悪い、怠け者のしもべだ」
▷ 1 タラントまで取り上げられる惨めさ



【2】 たとえから学ぶこと

- ・ 神は私たち一人一人に何らかの「タラント」を預けておられる
- ・ 「タラント」をどう用いるかは一人一人に委ねられている
- ・ 必ず清算の時が来る
- ・ 主の再臨に備える期間=それぞれが預かったものを活用する期間

【3】 1 タラント預かった者

- ・ 1 タラントを預かったしもべ
 - 一主人に対する偏見：自分勝手に横暴な主人
 - 一相手に対する歪んだ認識は相手への無理解へ
 - 一自分の身の安全、表面的な心の平安を第一に
- ・ 私たちの神様に対する認識は？
 - 一「あの人のように才能豊かじゃないから」など
 - 一他人と自分を比較し、自分に委ねられたタラントを過小評価
 - 一失敗のリスクを想定し土の中に埋めていることはないか
- ・ 大切なことは、①神様が自分に預けてくださったタラントを感謝して受け取り、②神様のために、喜んで、勇気を持ってそのタラントを活用すること(1ペテロ 4:10, イペソ 4:7)



▷ 終わりの日に父なる神様に「良い忠実なしもべだ」と声をかけてもらうことを待ち望み、神様と共に喜ぶあゆみを、今日、することができますように。